

平成30年度 家庭科 1学年 年間指導計画・評価計画

1. 教科目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通じて、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2. 評価の観点及びその趣旨

【生活や技術への関心・意欲・態度】

衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。

【生活を工夫し創造する能力】

衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。

【生活の技能】

生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。

【生活や技術についての知識・理解】

家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3. 1学年の目標

- ①今までの自分を振り返り、人との関わりを考えることができる。
- ②衣服の選択と着用、手入れについて学び、自分の衣生活を工夫して実践できるようにする。
- ③暮らすために必要な住居の機能と安全で心地よい室内条件について学び、よりよい住まい方の工夫を考えることができる。
- ④布を用いた物の制作を行い、生活を豊かにするための工夫ができるようになる。

4. 指導計画・評価計画表

		観点・評価規準				
月	指導内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解	評価資料
4	【今までの自分と人とのかかわり】(2時間) ・小学校の学習を振り返り自分の成長を確認しよう ・より良い家族関係を考えよう ・3年間の学習の見通しをもち、自立した生活者を 目指そう	・自分の成長や生活は家族やそれにかわる人々に支えられてきたことに気付いている。 ・小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。				・授業に対する取り組み ・プリント
5	【衣生活と自立】(10時間) ・衣服のはたらきを考えよう (1)衣服の社会生活上のはたらき (2)目的に応じた服装と個性を生かす服装	①衣服と社会生活との関わりに関心を持ち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとする。 ②個性を生かす着用について興味を持って進んで考えようとする。	①目的に応じた着用をすることが大切であることを考え、工夫する。 ②衣服の役割を踏まえながら、個性を生かす着用について工夫する。	①衣服の着用に関する社会的役割を考慮しながら、自らの個性を発揮する着方について基礎的な技術を身につける。	①衣服の社会生活上の機能について理解する。 ②自分の個性について考える機会をもち、理解する。	・授業に対する取り組み ・ハンドノート ・プリント ・提出物 ・作品の完成 ・定期テスト ・小テスト
6	・日常着の選択と手入れ・補修 (1)既製服の表示	①日常着の計画的な活用に関心をもって学習活動に取り組もうとしている。	①日常着の計画的な活用について考え、工夫する。	①既製服の表示や縫製などについて調べ、適切に選択できる。	①既製服の表示と選択に当たったの注意点を理解する。	
7	(2)衣服の素材 (3)衣服材料と洗濯 (4)ほころび直し (5)裁縫ミシンの使い方	②既製服を購入するときのポイントについて意欲的に考えようとしている。 ③衣服材料に応じた日常着の手入れについてや、衣服の補修について関心をもって学習活動に取り組もうとしている。	②着られなくなった衣類や普段活用されていない衣類の有効活用について工夫する。 ③日常着の手入れについてどのようにしたらより良いかを考え、工夫しながら取り組む。 ④環境に配慮した洗濯の工夫について考える。	②衣服材料や汚れの程度に応じた手入れができる。 ③補修の目的と布地に適した手入れができる。 ④環境に配慮して洗濯を行うことができる。	②綿、毛、ポリエステルなどの手入れに関わる性質について理解する。 ③洗濯の方法と特徴について理解することができる。 ④補修の目的と布地に適した方法がわかる。 ⑤環境に優しい洗濯について理解する。	
8	【生活を豊かにするために】(15時間) ・布を用いた物の制作					
9						
10		・今までの学習を振り返り、布を用いた物の制作に関心をもって取り組んでいる。	・工夫して作品を製作することができる。	・身に付けた技術を生かし、安全で効率よく作品の製作をすることができる。		
11						
12	【住生活の自立】(8時間) ・住まいのはたらき ・健康で安全な住まい ・住まいと地域	・家族が住むために必要な住居の機能について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・安全で快適な室内環境について理解し、関心を持ち、整え方や住まい方の課題を自分で見つけて取り組もうとしている。	・よりよい住み方ができるように、自分なりの工夫をしたり考えたりしている。 ・非常時の備えや学校内の安全点検などの学習を通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。	・汚れの種類を知り、それに適した掃除を行うことができる。	・住居の機能と安全で快適な室内環境の条件を理解している。	・授業に対する取り組み ・ワークノート ・プリント ・提出物 ・定期テスト ・小テスト